

科目区分	専門分野	科目名	共通基本技術Ⅱ (対象の把握)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30時間)	学 期	第1学期
担当講師	後藤華奈子(臨床経験13年、教育経験5年)				
科目目標	看護に必要な基本技術の概念を理解し、対象を把握する基本技術を習得する。				
授業計画	<p>第1回 コミュニケーション (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの意義と目的 2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 3. 効果的なコミュニケーションの実際 <p>第2回 ヘルスアセスメント (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3. 全体の概観 <p>第3回 バイタルサインの基礎知識 (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの意義と測定目的、影響因子 <p>第4回 バイタルサインの測定方法 (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体温、脈拍、呼吸数、血圧の測定方法 <p>第5回 バイタルサイン測定の実際1 (演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体温、脈拍数、呼吸数の測定演習 <p>第6回 バイタルサイン測定の実際2 (演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血圧の測定演習 <p>第7回 系統別ヘルスアセスメント技術(呼吸器系) (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的と実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 問診、視診、触診、打診 2) 聴診 呼吸音と呼吸副雑音 <p>第8回 系統別フィジカルアセスメントの実際1 (演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸音の聴診演習(正常) 		<p>第9回 系統別ヘルスアセスメント技術(循環器系) (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系のフィジカルアセスメントの目的と実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 問診、視診、触診 2) 聴診(正常心音、過剰心音、心雑音) <p>第10回 系統別フィジカルアセスメントの実際2(演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心音の聴診演習 2. 過剰心音、心雑音、呼吸副雑音 <p>第11回 看護における観察、記録、報告(講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察、記録、報告の意義と原則 2. 看護記録とその構成 <p>第12回 バイタルサイン測定の実際3(演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体温、脈拍数、呼吸数、血圧、呼吸音の聴診 <p>第13回 系統別ヘルスアセスメント技術(脳神経系、消化器系) (講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経系のフィジカルアセスメントの目的と実際 2. 消化器系のフィジカルアセスメントの目的と実際 <p>第14回 系統別フィジカルアセスメントの実際3(演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腹部症状を訴える患者のフィジカルアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 問診、視診、腸蠕動音の聴診、打診、触診、記録と報告 <p>第15回 終了試験</p>		
評価方法	筆記試験、技術チェックあり				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 2. 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 				
講師からのメッセージ	<p>解剖学の知識を想起しながら学習する。演習ではシミュレーターモデル、デモンストレーションや動画の視聴によりイメージ化を図る。自己学習の時間を活用して演習し、技術の習得に努める。解剖学の知識を理解した上で、授業に臨むこと。国家試験出題基準を確認し学習すること。</p>				